

---

# ルームシェアwith小人さん

柚木あずさ

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

ルームシェアwith小人さん

### 【コード】

N9140C

### 【作者名】

柚木あずさ

### 【あらすじ】

拝啓お母さん。このたび涼香は小人さんを拾いました。

(前書き)

この作品は『方言企画』参加作品です。

『方言』で検索しますと他の作者さんの作品もご覧になれます

ルームシェアwith小人さん

今朝は目覚まし鳴る前に目え覚めて、ジューズ買ったら釣銭多く出てきてもうけ。筆箱わつけて取りに戻ったら講義連絡に気づけだし、帰り道では信号に引つ掛からんですんだ。

今日はなんかツイとるやん。これはもう1つくらいええことが起きるな。根拠はないけど乙女の勘じゃ！

そんなことを考えながら鍵を差し込む。うちの部屋の鍵は具合が悪いのかなぜか固い。ちゃんと合った鍵のはずなのになかなか開からん……って、お、今日はちゃんと開いた！ やっぱツイてんな自分。

何かと幸運続きの1日。きつと今日の牡牛座は健康運、恋愛運、金銭運オール5のダントツ1位のラッキー星座。占いなんか信じてないけど、星が全部ついてるんは見たかったな。

「ただいまあ」

と言えども返ってくる言葉はなし。自由気ままなんは一人暮らしの利点やけど、こついつとき寂しいよな……。おつと鍵閉めんと。いちいち戸じまりに気配るんも一人暮らしの難点か。

今日は拾いもの運も星5やったんやろね。

それはベランダにあった。確かにうちは1階で、ベランダなんか外から楽に入り込めるし、何か捨てようと思えば捨てれるよ。しかし、実行する人間はめったにおらんやろ普通。

そこにあつたんは精巧な作りのフィギュア。フランス人形とかやなくて女の子向けのおもちゃって感じの。ビラビラの服やなくて、ハンカチで作りました的なみすばらしい服着とるんが気にかかるんやけど。

それにしても高いんちゃうやるか、これ。ホンマよう出来とる。髪の毛えとかつやつやと綺麗やし、人毛でも植えてんのかね。顔も

細かいところまでこだわってるんやろ、つんと伸びた小さな鼻先とか、薄く開かれた口とか、緩やかな丘を描くまぶたとか、なかなかリアルやん。そして美人さんだ。これが職人技ってやつなんやるか。よう見てみると眉も1本1本生えてるみたいやしさ、うっわ睫毛まであるやん！……はあ、最近の人形はホンマよう出来とんのな。すごいっつーか、ここまでくると気色悪。次元がいろいろとちやうな。

とりあえずなっとうしよう。警察届けるんはめんどいやん。ゴミとしてほってしまっくんも呪われそうで気持ち悪いし、見慣れんもんいろっくんも抵抗あるし。まあ、うだうだ考えても埒あかんか。危険はないやろし、綺麗にしてみて、話はそれからしよ。

私は猫の子みたいにそつと触れて、慌てて手え引つ込めた。なんか変な感じする。昔持った人形とちやうってなんかやらかいし気のせいかわかかった。恐る恐る持ち上げてみる。

「……ありえん」

その人形は私の手の中でかすかに、だけど胸を上下させてる。確かな温もりが伝わってくるし、ちびっちゃん口はもぞもぞと動きよる。マジでか。最近の技術はすごいんやなあ、生きとるみたいやん、わあすごい！……んなわけあるかい。ちゃんと成長せんかったりする病気があるゆうけど、でも人間ってここまで小さくなれるんか？ 赤ん坊でももうちよいでかいやん。人間ではないわな、常識的に考えて……って、人間やなかつたら何になるんよ、これえ！ 一人あたふたしているとソレは細い腕を振り上げて、なにやら音を立てる。……音、っていうか声？ まじで？ しゃべるか、こやつ！

ソレをとりあえずベッドの上に乗せ、ゆっくりと深呼吸。落ち着きい自分。

前略おかん殿

家を離れずいぶんとあいなりますが、大学生活にも慣れ、いつ

も元気であります。さて、先日(っていつか今)人形を拾いまして  
ございます。その人形は動いてしゃべってどうやら生きているよう  
に思いつかまつります。

帰省するそのときまでよろしくお待ちくだ候。かしこ

いやいやいや、現実から目をそらしちゃいかんよ私。

そうだ、もう1回確かめよう。ゆっくり息を吐き出して、ソレを  
見る。思わず正座。ベランダにあったときと同じく人形のようにし  
か見えん。いや、でも動いたしな。指伸ばすと、ソレは払いのける  
かのように寝返りをうった。

動きましたよ、触ってないのに。確かに動いた。これって人  
形やないよな？ ロボットでもなさそうやん？ 人間って……マジ  
ありえんし。

ソレはゆっくりとまぶたを上げると、上半身を起こし辺りをしき  
りに見回した。ばちりと目が合うやいなや、甲高い声でさえざる。

「……人間？」

しばらくは心の整理がつくまで見つめ合っとなった。人形(?)と  
人間がひとつのベッドの上で正座をして見合ってるって、さぞかし  
愉快的光景やつたるな。そんなもって、ひとつひとつ言葉を交わし  
て、ゆっくりとお互いの状況を整理していった。

どうもうちらは似た者同士らしく目立ってパニくることもなかつ  
た。似た者同士ってことは、心中では踊り喰いの犠牲になった魚並  
に慌ててたんやるな、と想像つくわ。

この生き物は、自分は小人だ、と言いよった。納得せざるを得ん  
けど。普段はこの子らの世界において、人間の世界に来る時は姿を  
くらます方法を使つとるそうだ。が、勘のいい猫 人間でゆうと  
この霊能力者みたいな猫やつたらしい に睨まれ、追い駆けまわ  
されとるうちに力を使い果たしたとか。御苦労さんなこって。

「助けてくれてありがとうございます。それじゃ」

「ちよ、待ちな」

「私たちみたいの、迷惑でしょ」

小人からしてみればかなりの高さがあるベッドのへりから、ひらりと飛び降りると、すたすた歩いて行く。へえ、度胸あるやん…  
…やなくて。

「いや、その、力とやらが戻るまでうちにおったら？ このへん猫多いし、また追っかけられんとも限らんやん」

この子、なんか危なっかしいし、どこぞで食われたりなんかしたら夢見悪いし。

「な。小人さん」

「……ナズナ。小人さん、じゃない」

「私、檀涼香。好きに呼んでえな」

ナズナは初めこそおとなしかったんやけど、慣れてみるとこれかなりおつちやくい。3日を過ぎた頃にはそのへんちよるちよる動き回って、おかげで何度踏みつけそうになったか。それでもま、小人圧死未遂事件を何度か繰り返して一応の学習はしたんか、できるだけ高い場所、机の上とかにいるよう心がけてるらしいわ。

驚いたのは身体能力の高さ。自分の身長の3倍くらいなら軽々飛びあがるし、自分の体重の十倍くらいのもんなら持てる様子。パワフルやん。あつちこつち探検するんはいいとして、散らけるんはどうもならんな。いきなり子持ちの気分？ ぶつちゃけえらいんですけど。

食事は少し悩んだけど、人間と同じ雑食で、好き嫌いも特になかった。それで体格に見合った量しか食べんから私のご飯のおすそ分けですむのには助かる。口にしたことのないもんはそこそこあるらしく、飲んだことない、言うコーヒーを飲ませてみると、熱さにむせはしたけどお気に召した様子。朝はティースプーンですくって、なかなか豪快に飲む。1杯目はブラックがお好ましい。残りは私が飲むわけで、ちなみに砂糖とクリームは入れる派。とこるからと念入りにかき混ぜとると横からスプーン奪い取って2杯目を飲む。

ちゃんと混ぜずに飲もうとするんは理解しがたい。

それでもって日なたぼっこも好きらしい。私が大学に行っている間は何をしているんか知らんけど、基本的に寝ているらしい。朝出てくときも、昼あたりに帰ってきた時も、夕方も、いつも、お世辞にも日当たりが良いとは言えやんうちんちで、日光のさす場所見つけては猫のように丸まって横になっとる。

「いい加減日焼けするよ？」

「いーの。こうしてると早く回復するから」

「ああ、力か。帰るんにも必要やっけ」

「自力で帰る分にはね。リョウカは早く回復してほしい？」

「……何にもしてくんないからね、この居候は。炊事洗濯くらい良くない？」

せっかくうちおんのに宅配のひとつも受け取らんのはなんとなくム力つく。まあ無理な話やるけど。あ、そっぴや洗濯すんのわっけてた。今から洗ったんじゃ間に合わんしなあ……。本当、干してくれたら助かんのにさ。少しはやってみる、と額を小突いてやる。

「どう考えても無理ですよ」

ナズナはペットボトルのフタに注いでおいたスポーツドリンクを飲み干す。あいかわらずの飲みっぷりやな。そしてまた、光の輪の中で横になる。

「まあ、こつちがどうこうしなくてもそのうち迎えが来るけど、もうすぐ大人試験があるし。蓄えるに越したことはないもん」

「試験？」

「人間もするでしょ。お正月くらいに派手な服着て」

「成人式やる、それ」

「……今はこつちに来るのに許可がいるの。でも合格したらフリーパスって言うのかな。こつちで暮らせる」

猫に襲われた経緯がなんとなく見えた。親御さんに見てみたら、こういう危なっかしいのを野を放つ気にはなれんわな。よう許可してくらはりました。

「ようわからんけど頑張りい」

「何その上から目線」

「上からも何も、だって大人ですから」

ナズナは小さい頬を一生懸命ふくらまして、そっぽを向いてしまった。怒ったかな。こういうのもかわいらしいんよなあ。

つと、もう時間やん。

「んじゃあもうそろそろ出るわ。早いうちに帰ってくるから、いい子にしたりよ」

「子供じゃないっつの。いつてらっしやい」

振り向きもせず面倒くさそうに放たれた言葉。でもこの言葉が今のところ一番好きだ。いつてらっしやい、なんて言うてくれる人おらんかったからなあ。

帰ってきたときには、おかえりなさい。言葉が返ってくるのはなかなかにうれしい。メイド喫茶の需要が少しわかった気がする。

それは、ナズナが現れて15日目の昼。帰ってきた部屋はがらんとして、言葉は返って来んかった。

最初はどこかに隠れているんやる思った。あのちっちゃい体だ。どこへなりとも隠れられるし、外出てるんかもやし。

せやけど結局、夜になっても帰ってこーへん。どこ行きよった。

ナズナの寢床にたとまれて置いてあったメモ書きに気いついて、おかえり、の言葉をそつと喉の奥へ追いやった。

おせわになりました。

前置きも続く文章もなく、震えた不格好な字でそう書かれとる。小さい体で鉛筆がついで一生懸命書いたんやる。わざわざ御苦労なことやな。

……今日がタイムリミットやったんか。どうせやったらもうちよいちゃんとしたかったわ。ごめんな。

ナズナがどつか行つて早3日。独り暮らしを始めた時には、一人やなんてすんなり慣れたもんやっただけ、意外にきつかった。ホームシックにもならんかったのに、たかが半月暮らしした得体の知れん生き物相手に落ち込むことがあるなんてな。あほらし。

それでもまあ、いきなりほったかされたら心配になるんが人つづーもんやろ。一言ゆうてやりたい。やけども、ま、許可がどうのゆうとつたし、わがまままきかんのやるけど……。

ナズナが占領していた一角に目えやつた。そこには汚い字いのメモ。何度見ても、お世話になりました、としか書いてない。他に書くことなかったんかいな。ベッドに寝転がって、誰に言うわけでもなく不満が口をつく。

「暇だ……つつか、静かで怖い」

言葉は返つて来やん。これが日常、普通の生活。元通りの日々。うん、きつと、もうすぐ慣れるやろ。心配ない。目を閉じて、心を落ち着ける。壁の向こうから聞こえる賑やかな声、天井を2枚ははさんで降ってくる足音、目覚まし時計の秒針、外では猫が喧嘩しとる。

くぐもった音の中でいやにはつきり響いた音。うちのチャイムやん。そういやお母さん、何か送ってくれるゆうとつたな。

玄関開けると、そこにおつたんは、うちより頭ひとつ小さな同い年くらいの女の子。つんと伸びた小さな鼻先とか、薄く開かれた口とか、人形のような、可愛い子。

ソレは挨拶もそこそこに、破顔一笑。

「ただいま。大人試験、受かったよ」

大人つてそういう意味なん？ まんまやないの。

ナズナの甲高い声は幾分低くなっていた。せやけどころころとした丸っこい声。私なんかよいかずつとか可愛ええわ。髪もあいかわらず綺麗で、ほんま、そのまま大きくなったんやね。

おかえり、と久しぶりに口にした言葉はかすれて、やけどしつかり届いたと私は思う。

「リヨウカ小さくなつたね」

「そんなん、あんたが大きいなつたんやろが。にしてもまあ、えらい伸びてもて」

「だって“大人”ですから」

ナズナはせつかくの美人顔歪ませて、不細工な笑み浮かべる。

「こつちに慣れるまででいいからさ、お世話になっていい？」

TO：お母さん

件名：同居人ができた

本文：友達が住むことになった。私は元気してるから心配せんでね

(後書き)

最後になりましたが、関西弁ではありません(厳密に言えば)。エセ関西弁でもありません。三重弁です。

意味の分からない言葉がありましたらご指摘ください。

イマイチ違いが分からないとの指摘があったので方言を若干強めにしてみました。(11/15)

普段口に出している言葉ですが、こつして活字にしてみると違和感がありますね。

思っているより訛ってるということでしょうか？

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9140c/>

---

ルームシェアwith小人さん

2009年3月24日12時04分発行